

平成5年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

1995

長野県更埴市教育委員会

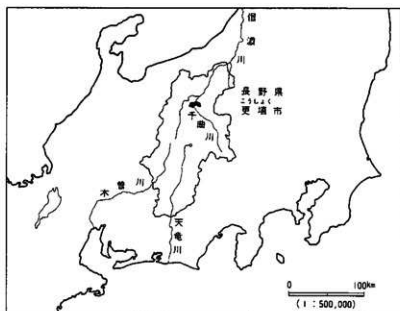


平成5年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

1995

長野県更埴市教育委員会



更埴市の位置

例 言

- 1 本書は、更埴市教育委員会が平成5年度に実施した埋蔵文化財の調査報告書で平成6年度に刊行した。
- 2 調査は、更埴市教育委員会が主体となり、事務局は社会教育課文化係が担当した。

更埴市教育委員会事務局

教 育 長	安藤 敏
教育次長	大久保修司 (平成5年度) 下崎 巖 (平成6年度)
社会教育課長	下崎 巖 (平成5年度) 山崎芳之 (平成6年度)
文化係長	下崎雅信
文化 係	矢島英雄 佐藤信之 竹内正夫 (平成5年度) 小野紀男 (平成6年度)

- 3 調査担当者は、文化財係担当職員があたり、調査員・作業員を募り実施した。
- 4 本書は、調査員・作業員による整理作業を経て、各担当者が執筆して作成した。なお、発掘調査のうち、規模の大きなものについては、本書とは別冊で報告した。
- 5 本書に掲載した位置図は、原則として更埴市地形図10,000分の1を使用した。
- 6 本書中の方位は、真北を示している。
- 7 発掘調査の実施にあたっては、調査基準点の正確な位置を知るために測量業者に委託し、平面直角座標系第VIII系の座標値を求めた。
- 8 各調査の出土遺物・実測図・写真等のすべての資料は更埴市教育委員会に保管されている。資料には各調査ごとに調査記号を付し、整理保管されている。

目 次

例言・目次		
	平成5年度埋蔵文化財調査概要	1
1	治田池遺跡発掘調査	7
2	天木下遺跡発掘調査	8
3	坪山遺跡・判官塚古墳発掘調査	12
4	武水別神社遺跡発掘調査	14
5	古屋敷B遺跡発掘調査	15
6	宮裏遺跡発掘調査	19
7	田中沖遺跡発掘調査	20
8	城ノ内遺跡発掘調査	21
9	大境遺跡整理調査	22
10	南沖遺跡整理調査	23
11	屋代城跡測量調査	24
12～17	試掘調査	25
12	土口北山古墳群	
13	更埴条里水田址	
14	横田島遺跡	
15	清水遺跡	
16	大家遺跡	
17	荒井遺跡	
18	中島遺跡	
19～25	立会調査	32
19	更埴条里水田址	
20	堂河原遺跡	
21	更埴条里水田址	
22	城ノ内遺跡	
23	下吉野C遺跡	
24	土口遺跡	
25	更埴条里水田址	
26	更埴条里水田址	
27	水引遺跡	
28	北野遺跡	

平成5年度埋蔵文化財調査概要

平成元年度から御長野県埋蔵文化財センターによって調査が開始された自動車道の調査も長野自動車道については、平成3年度で調査が完了し、上信越自動車道についても6年度で調査が完了予定である。また、自動車道に関連する調査も、一部移転先の調査を実施したが、ほぼ終了した。

自動車道の調査に代わって、北陸新幹線の調査が市内でも開始されている。

公共事業では、5件の発掘調査が実施されている。昭和56年に始まった西部沖県営ほ場整備事業に伴って坪山遺跡の調査が行われ、市内ではほとんど出土のない縄文時代中期の遺物が出土注目される。今回の調査をもって現場における調査は完了した。また、更地建設事務所改築に伴って宮裏遺跡の発掘調査が実施され、多数の中世墳墓が検出されている。そのほか、道路建設に伴う発掘調査が3件実施されている。

他に発掘調査を実施したものには、開発公社による宅地造成に伴って実施した治田池遺跡と、自動車道に関連して、天木下遺跡に移転した民間工場の発掘調査を行った。治田池遺跡の調査では、弥生時代から平安時代の集落跡と共に、坪山遺跡同様縄文時代中期の土坑が検出された。沖積地となる平坦部にもすでに縄文時代中期から、人々が居住したことが改めて確認された。

範囲確認調査として実施される屋代城跡は、5年度に業者に委託し地形測量を行い、6年度は縄張り調査、発掘調査、文書調査、城下町調査など総合的な調査が実施され、報告書にまとめられた。

民間の開発事業は、落ち着いた状況にある。上記した倉庫建設に伴う調査以外に発掘調査に至ったものはなかった。

御長野県埋蔵文化財センターによって実施された屋代遺跡群の発掘調査では、地下約5mから縄文時代中期の集落跡が発見され、屋代自然堤防に対する認識が一新され、屋代遺跡群の重要性がさらに高まった。

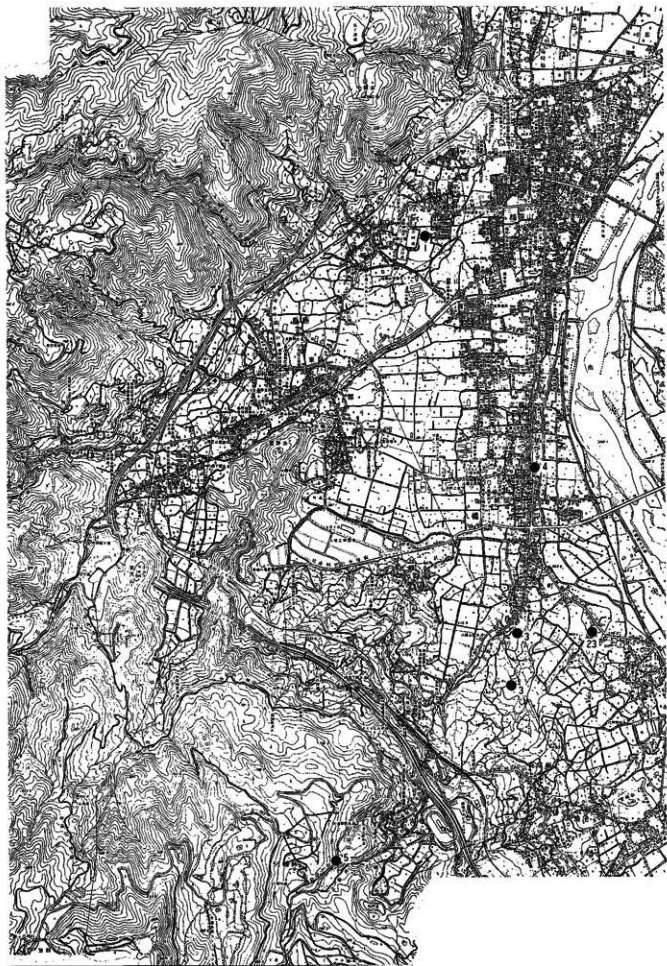


第1図 調査位置配置図

平成5年度調査一覧

番号	遺跡名	所在地	原因事業	原因者
発掘調査				
1	治田地遺跡	稲荷山	公社＝宅地造成	更埴市土地開発公社
2	天木下遺跡	寂蒨	民間＝工場建設	丸善食品㈱
3	坪山遺跡・判官塚古墳	八幡	公共＝ほ場整備事業	長野地方事務所
4	武水別神社遺跡	八幡	法人＝建物改修	(法)武水別神社
5	古屋敷B遺跡	八幡	公共＝林道建設	更埴市(農林課)
6	宮裏遺跡	屋代	公共＝建設事務所建設	更埴建設事務所
7	田中沖遺跡	杭瀬下	公共＝区画整理事業	杭瀬下土地区画整理組合
8	城ノ内遺跡	屋代	公共＝道路建設	更埴市(都市計画課)
9	大境遺跡	屋代	民間＝変電所・鉄塔建設	中部電力㈱
10	南沖遺跡	粟佐	民間＝店舗増築	エムケー興産㈱
11	屋代城跡	屋代	学術＝範囲確認調査	更埴市教育委員会
試掘調査				
12	土口北山古墳群	土口	民間＝宅地造成	北村啓一郎
13	更埴条里水田址	屋代	民間＝社屋建設	㈱北澤組
14	横田島遺跡	雨宮	民間＝宅地造成	長野都市計画㈱
15	清水遺跡	寂蒨	民間＝宅地造成	㈱サンモード
16	大塚遺跡	屋代	公社＝宅地造成	長野県土地開発公社
17	荒井遺跡	屋代	民間＝宅地造成	富士建設㈱
18	中島遺跡	寂蒨	民間＝倉庫建設	センコー㈱
立会調査				
19	更埴条里水田址	屋代	民間＝アパート建設	両角利栄
20	堂河原遺跡	杭瀬下	民間＝店舗建設	村山義治
21	更埴条里水田址	森	民間＝仮設事務所・宿舍	日東建設㈱
22	城ノ内遺跡	屋代	民間＝店舗建設	㈱宮本商会
23	下吉野C遺跡	八幡	民間＝工場建設	信濃機工㈱
24	土口遺跡	土口	公社＝宅地造成	更埴市土地開発公社
25	更埴条里水田址	屋代	公社＝宅地造成	長野県土地開発公社
26	更埴条里水田址	屋代	民間＝宅地造成	㈱キザキ商事
27	水引遺跡	桜堂	民間＝店舗建設	市川澄雄
28	北野遺跡	雨宮	民間＝アパート建設	平林和夫
助長野県埋蔵文化財センター調査				
29	屋代遺跡群	雨宮	公共＝上信越自動車道	日本道路公団
30	大穴遺跡	森	公共＝上信越自動車道	日本道路公団
31	更埴条里	雨宮	公共＝上信越自動車道	日本道路公団
32	窪河原遺跡	雨宮	公共＝上信越自動車道	日本道路公団
33	更埴条里	屋代	公共＝北陸新幹線	日本鉄道建設公団
34	屋代遺跡群	屋代	公共＝北陸新幹線	日本鉄道建設公団

調 査 期 間	調査面積	調査費用	備 考
H 5. 4. 1～5. 31	2,000 m ²	4,840,000円	
H 5. 5. 11～5. 13	200 m ²	610,000円	
H 5. 6. 7～8. 9. 12. 6～12. 8	1,750 m ²	5,000,117円	H 6 年に整理作業、国庫補助事業
H 5. 8. 17～8. 31	50 m ²	80,000円	
H 5. 9. 8～9. 16	20 m ²	317,077円	
H 5. 10. 1～11. 9	700 m ²	3,200,000円	H 6 年も調査継続
H 5. 11. 10～12. 20	400 m ²	3,178,000円	H 8 年まで調査継続
H 6. 1. 26～2. 8	350 m ²	816,502円	H 8 年まで調査継続
H 5. 5. 20～H 6. 3. 31	整理作業	1,940,000円	H 4 年に調査実施
H 5. 8. 2～H 6. 3. 31	整理作業	380,000円	H 4 年に調査実施
H 5. 12. 13～H 6. 3. 30	測量調査	6,629,740	H 6 年に調査、国庫補助事業
H 5. 4. 22	トレンチ	重機	
H 5. 6. 24	トレンチ	重機	
H 5. 7. 28	トレンチ	重機	
H 5. 7. 30	トレンチ	重機	
H 5. 12. 6, 12. 20	トレンチ	重機	
H 5. 12. 15	トレンチ	重機	
H 6. 1. 12	トレンチ	重機	
H 5. 5. 18			
H 5. 6. 8			
H 5. 7. 13			
H 5. 7. 19			
H 5. 9. 1			
H 5. 9. 28			
H 5. 10. 26			
H 5. 11. 9			
H 6. 2. 15			
H 6. 3. 9			
H 5. 4. 8～12. 24	13,750m ²		H 6 調査実施
H 5. 4. 8～7. 29	8,000m ²		調査完了
H 5. 4. 8～9. 14	10,400m ²		調査完了
H 5. 8. 2～10. 8	9,000m ²		H 6 調査実施
H 5. 4. 2～4. 16, 9. 20～10. 7	1,100m ²		H 6 調査実施
H 5. 4. 14～12. 21	3,800m ²		H 6 調査実施



第2図 更埴市川西地区調査位置図 (1:25,000)



第3図 更埴市川東地区調査位置図 (1:25,000)

1 治田池遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 治田池遺跡(市台帳No95)
- 2 所在地及び 更埴市大字稲荷山字元町1558 他
土地所有者 更埴市土地開発公社
- 3 原因及び 公社事業=宅地造成
事業者 更埴市土地開発公社
- 4 調査内容 発掘調査(調査面積 約2,000㎡)
- 5 調査期間 平成5年4月1日～5月31日
- 6 調査費用 4,840,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会

担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
調査員 望月貴弘 東京学芸大学学生

- 8 種別・時期 集落跡 縄文時代～中世
- 9 遺構・遺物

土坑	縄文時代	5基	
住居跡	弥生時代	3棟	古墳時代 10棟
掘立柱建物跡	平安時代	4棟	
井戸	近世	1基	
土器片	平安時代～近世	コンテナ40箱	



第4図 治田池遺跡調査位置図

II 調査の所見

試掘調査の結果、地表下約30cmに埋蔵文化財が確認されたため、切り土部分について発掘調査を実施することとなった。

江戸時代における開田により、計画地の東側及び南側は削平されており、遺構の検出はなかった。今回の発掘調査において、更埴市ではほとんど調査例のない縄文時代の遺構が検出されたことは、特筆すべきものである。検出された遺構は直径1m程の土坑で、それぞれ土器が伴っていた。しかし住居跡の検出はなかった。これらの土坑は、いずれも縄文時代中期前半のもので、墓の可能性が高い。弥生時代後期以降は、集落が形成されており、古墳時代の住居跡は、特に大型のものが検出され、斜面上部に排水溝を設けて住居内への水の侵入を防ぐ工夫がなされたものがあり注目される。

平安時代では、掘立柱建物跡4棟のほか、土坑、溝が多数検出されている。建物跡と判断できた掘立柱建物跡は4棟であったが、柱穴から、さらに数棟あったものと思われる。また、この建物跡と同時期の竪穴住居跡が検出されておらず、どのような性格をもつ遺跡なのか興味深い。

近世の石組井戸跡からは、出土遺物はなかった。

平成6年度に整理作業を行い、『治田池遺跡』として報告書が刊行される。

2 天木下遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 天木下遺跡 (市台帳No.180)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字寂苺880
丸善食品工業株式会社
- 3 原因及び
事業者 丸善食品工業㈱
民間事業=本社工場建設工事
- 4 調査内容 発掘調査 (調査面積 約200㎡)
- 5 調査期間 平成5年5月11日～5月13日
- 6 調査費用 610,000円 全額事業者負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
調査参加者 久保啓子 久保文男 小林千春 小林昌子 小林芳白 高野貞子 富沢豊延
中村久美子 村山 豊
- 事務局 下崎 巖 下崎雅信 矢島宏雄 佐藤信之 竹内正夫
- 8 種別・時期 散布地 平安時代
- 9 遺構・遺物 平安時代? 柱穴群
出土遺物 土器片 コンテナ1箱



●調査位置 1 天木下遺跡 2 法正寺遺跡 3 西王子遺跡 4 船山遺跡 5 鍋物師屋遺跡
第5図 遺跡位置図

II 発掘調査に至る経過

丸善食品工業㈱雇代工場が自動車道建設用地内にあり、周辺に代替地所が確保できなかったため、本工場を増築することとなった。建設予定地には既存の建物があるため、平成5年2月7日、隣接地で試掘調査を行った結果、地表下60～120cmに埋蔵文化財の包蔵が確認された。このため、2月26日、今後の日程について協議を行った。3月2日、再び協議を行い、発掘調査を行い保護することとなった。3月3日、丸善食品工業㈱から埋蔵文化財発掘の通知があり、4月27日、調査の方法等について協議を行った。その結果、2棟ある工場のうち1棟は5月に調査を行い、残りは秋に行うこととなった。また、調査の契約は春と秋と別々に行うこととした。5月6日、丸善食品工業㈱と更地市の間に調査費用2,493,000円で委託契約が締結された。

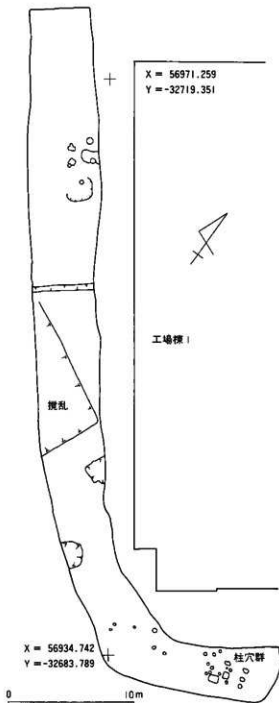
5月11日から調査を開始したが、現在の工場建設時に行われた造成により、埋蔵文化財は破壊されていたため、5月13日、調査を終了した。このため、調査費用を610,000円に減額し、残りは立会調査で保護に当たることとした。8月3日と6日に立会調査を行ったが、すでに埋蔵文化財は破壊されており、確認されなかった。

III 遺構と遺物

幅5m、長さ50mのトレンチを設定し、遺構が検出された部分を拉幅することとして調査を開始した。

地表から50cm程掘り下げると、地山層と思われる黄褐色土となるが、既存の工場建設の際、上部が削平されており、遺物包含層はなく、砕石を取り除くと遺構検出面となる。したがって、この黄褐色土自体上部が削られていると思われ、ビットなどわずかに遺構が検出されたにすぎない。

調査区南側からは、直径20～40cm、深さ30cm前後のビットが十数本集中して検出されている。掘り込みが小さく一定の並びを



第6図 天木下遺跡全体図

示していないため、建物などの存在は考えにくい。何らかの施設があったものと思われる。また、調査区中央部付近からは、覆土に焼土を含む掘り込みが検出されている。掘り込みはわずかであり出土遺物もないため、どのような遺構であったかはわからないが、削平された部分に遺構があったことを示している。

出土遺物は平安時代の土器約50片、中世陶器等約20片がある。いずれも小片であり図示できるものは少ないが、平安時代には土師器の杯・皿・甕、須恵器の杯・杯蓋・甕・壺などがある。1は内面黒色処理された皿で、底部には糸切り痕を残しており、体部には「臣」と読める墨書がある。2は須恵器杯蓋、3は壺の底部で高台が付けられている。中世の遺物は古瀬戸と思われる皿のほか、内耳土器・かわらけなどがある。

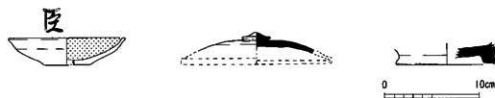
IV ま と め

今回の調査では、住居跡などは検出できなかったが、今まで調査のなかった寂蒨地区で遺跡の存在が明らかになったことは大きい。

寂蒨地区では昭和55年に実施した詳細分布調査の際、いくつかの遺跡が確認されている。このうち、西王子遺跡はまとまった土器の出土があり、集落跡の存在が想定されていたが、ほかの遺跡は数片の遺物が表面採取されているにすぎず、遺跡の存在そのものが不明確であった。今回の調査で検出された遺物も量的には多いものではないが、地山層に残ったわずかな黒褐色土中から検出されたものであり、何らかの遺構が存在したことは確実である。

また、寂蒨地区の遺跡は、千曲川の洪水砂に覆われているため、かなり深い部分に含まされていると考えられてきた。しかし今回の調査では地表下約50cmと、浅い部分から検出されている。工場建設の際、上部が削られていることもあるが、国道18号線との比高を見れば削平はわずかであり、削平分を加味しても地表下1m以内には遺構が存在するものと思われる。

墨書土器は、小破片であるため「臣」は一字であるのか、漢字の一部であるのか不明であるが、出土に合わせ、墨書の意味についても興味もたれる。



第7図 天木下遺跡出土遺物

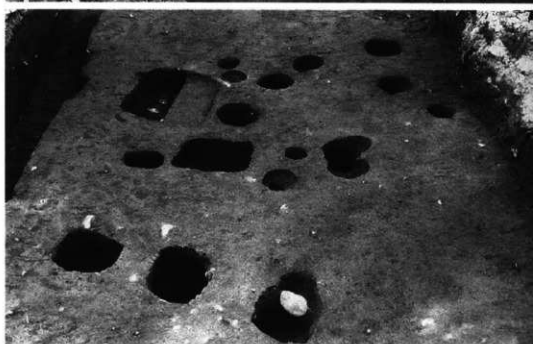
天木下遺跡



調査風景
(北西側より)



調査区全景
(南東側より)



柱穴群
(東側より)

3 坪山遺跡・判官塚古墳 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 坪山遺跡^{ツバサ} (市台帳No.180)・判官塚古墳^{はんくわんづか} (市台帳No.90)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字八幡字坪山・字判官塚
西部冲県営は場整備長尾根委員会
- 3 原因及び
事業者 公共事業=県営は場整備事業西部冲地区長尾根工区
長野県長野地方事務所
- 4 調査内容 発掘調査 (調査面積 約1,750㎡)
- 5 調査期間 平成5年6月7日～12月8日
- 6 調査費用 5,000,117円 (農政部局 4,060,000円 文化財保護部局 940,117円)
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 8 種別・時期 坪山遺跡 集落跡 縄文時代～近世
判官塚古墳 古墳 古墳時代
- 9 遺構・遺物 坪山遺跡 縄文時代 大溝 1基
弥生時代 住居跡 1棟
古墳時代 掘立柱建物跡 1棟
出土遺物 土器片コンテナ 10箱
判官塚古墳 古墳時代 墳丘裾の一部
出土遺物 土器片コンテナ 1箱

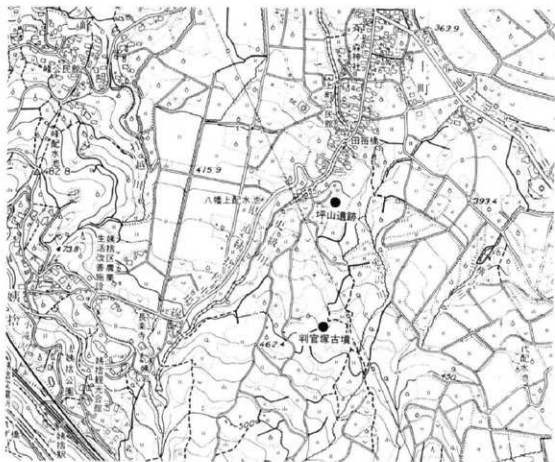
II 調査の所見

坪山遺跡の調査では、煨捨土石流台地に営まれた縄文時代集落にせまる大溝の検出が特筆される。住居跡の検出には至っていないが、縄文時代初頭から前葉の土器が大溝内に廃棄された状態で出土している。また、打製石斧を中心とした石器や剥片の出土もあり、周辺に集落のあった可能性を示している。三峯山より北東に幾筋も延びた煨捨土石流台地は、昭和57年から始まったは場整備事業に伴い、発掘調査が実施されているが、縄文時代の遺構は検出されていない。水田開発による遺跡の破壊もあろうが、土石流台地の成因との関係で興味深い。

このほか弥生時代の住居跡1棟と、古墳時代と考えられる掘立柱建物跡1棟が検出されている。

判官塚古墳の調査は、更埴市史刊行に伴い、昭和59年に横穴式石室内部の調査が実施されており、6～7世紀前半の築造と考えられている。今回のは場整備事業では、事業対象区域外とされ現状保存されたが、墳丘裾の一部に排水路が敷設されることとなったため、墳丘裾部の確認も含め、発掘調査を行った。調査の結果、幅1.5m、深さ20cmの溝状の落ち込みを検出した。

平成6年度に整理作業を行い、『坪山遺跡・判官塚古墳』として報告書が刊行される。



第8図 坪山遺跡・羽宮塚古墳調査位置図



第9図 坪山遺跡調査区全景(南側より)

4 武水別神社遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 武水別神社遺跡 (新発見)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字八幡字社地3012 他
宗教法人武水別神社
- 3 原因及び
事業者 法人事業=建物改修
宗教法人武水別神社
- 4 調査内容 発掘調査 (調査面積 約50㎡)
- 5 調査期間 平成5年8月17日～8月31日
- 6 調査費用 80,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
- 8 種別・時期 社寺跡 中世～近世
- 9 遺構・遺物 石列 近世 1基
古銭 中世～近世 約39,000枚



第10図 武水別神社遺跡調査位置図

II 調査の所見

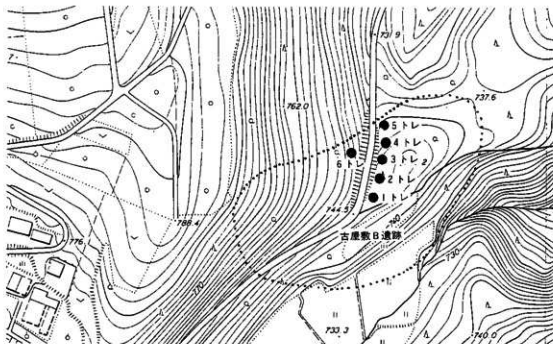
平成4年度から開始された県宝武水別神社高良社本殿修理の際、多量の銭貨が出土したため、調査が実施された。遺構としては、建物の基礎と平行して石列が検出されたが、現状のまま埋戻すため下部の調査を行わなかったため、詳細は不明である。出土した銭貨のうち、最も多かったのは寛永通宝で、約20,000枚出土しているが、そのほか渡来銭や一銭銅貨など昭和初期のものまで含まれていた。

平成6年度に『長野県宝武水別神社高良社本殿修理工事報告書』として宗教法人武水別神社より報告書が刊行される。

5 古屋敷B遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 古屋敷B遺跡 (市台帳No.47)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市 更埴市大字八幡字芝山2-イ-361
- 3 原因及び
事業者 公共事業=林道大池線拉幅工事
更埴市 (農林課)
- 4 調査内容 発掘調査 (調査面積 約20㎡)
- 5 調査期間 平成5年9月8日～9月16日
- 6 調査費用 317,077円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
調査参加者 猿渡久人 久保啓子 小林千春 小林芳白 富沢豊延 中村久美子
中村文恵 村山 豊
- 事務局 下崎 巖 下崎雅信 矢島宏雄 佐藤信之 竹内正夫
- 8 種別・時期 散布地 縄文時代早期～前期
- 9 遺構・遺物 土坑 1基
出土遺物 土器片コンテナ1箱



第11図 古屋敷B遺跡調査位置図 (1:2,500)

II 遺構と遺物

調査地は林道建設のため尾根を切断した際、土器が出土したとされる地点であったが、切断面を見ても遺物などは検出できなかった。したがって、調査は道路の東側に5か所、西側に1か所のトレンチを設定し、遺構が検出された部分を広げることとして開始した。

1 トレンチ 調査区の南側に設定したトレンチで、腐植土を取り除くと厚さ10cm程の黒色土となり、厚さ20~25cmの暗黄褐色土を経てローム層となる。遺物はわずかではあるが、黒色土の下部から暗黄褐色土にかけて出土している。

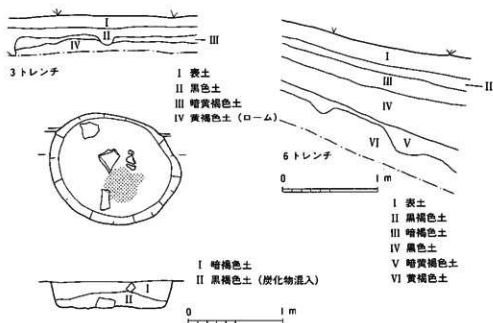
2 トレンチ 土層の堆積は1トレンチとほぼ同じであったが、ローム層を掘り込んで土坑が検出されている。長径140cm、短径115cmの楕円形で、深さは最大30cmを測る。覆土は上層が暗褐色で、下層は黒褐色となり炭化物を含んでおり、両者の間からはわずかではあるが焼土も検出されている。また覆土中には15cm前後の角礫が数個含まれており、底部は平坦で顕著であった。

3・5 トレンチ 1トレンチ同様、腐食土を取り除くと黒色土となり、ローム層と黒色土の混ざった暗黄褐色土を経てローム層となる。3トレンチは出土遺物が比較的多かったため拡張したが、遺構の検出はなかった。

4 トレンチ 土層の堆積は1トレンチと同じであったが、木の根などによる攪乱のため、一部に土層が逆転した部分が見られる。

6 トレンチ 道をはさんで西側に設定したトレンチで、かなりの傾斜地となる。腐食土の下には黒褐色土、暗褐色土があり、安定した黒色土となることから、上部からの崩れをかぶっているものと思われる。

遺物は各トレンチで数片から数十片出土しているが、いずれも小片であり、文様がわかるものはほとんどない。1・2は山形の押型文で縦位に施文されている。3~7は縄文をもつもので、3は細が



第12図 古屋敷B遺跡土層断面図及び1号土坑

い燃糸文が施されている。4はRLとLRを結束して施文しているが、LR部分が器面にほとんど施文されていない。5は0段多条のRLの縄文が施文されており、胎土に繊維が多量に混入されている。6・7は細かな縄文で、胎土に繊維の混入は見られない。8には条痕文が施され、9に見られる沈線は貝殻腹縁によるものと思われる。10は隆帯をもち、斜位の平行沈線内に刺突文を施している。

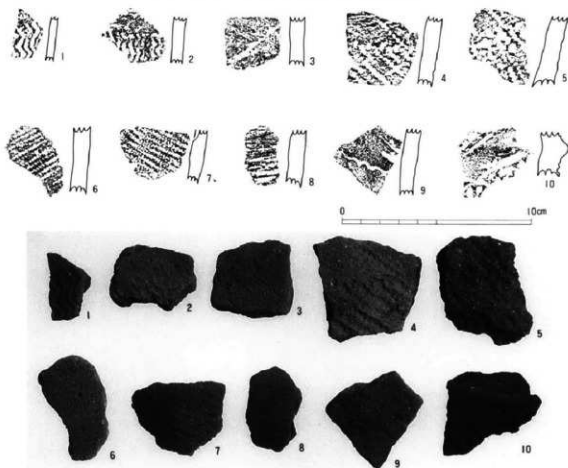
III ま と め

今回の調査で検出された遺構は、土坑1基であった。土坑に伴う遺物がないため、時期は不明である。

出土遺物は小破片で詳細を知ることができないが、押型文は胴部に縦位に施文されたものであり桶沢式土器と考えられる。ただ、以前に表採されている土器は格子目の押型文が圧倒的に多い。3の燃糸文は細かく、2本単位で施文されており、早期のものとは異なる。4-7の縄文土器は胎土に繊維を含むものと含まないものがあり、0段多条が多い点、同系の土器で実底と思われる破片があることなどから、早期末から前期初頭の土器と思われる。貝殻腹縁による沈線を施した9は田戸式で、隆帯をもつ10は鶴ヶ島台式であろう。

調査地点は東へ向かって延びる尾根が、傾斜角を変え台地状の地形へと移行する部分であった。遺物の出土も散在的であり、遺構が存在するとすれば、調査地から東に寄った台地上が考えられる。

調査地周辺ではかなり広範囲にわたって、縄文時代早期から前期の遺物が表面採集されているが、その出土はわずかであり、どのような性格を持つ遺跡であるのか興味深い。



第13図 古屋敷B遺跡出土遺物

古屋敷B遺跡



調査風景
(西側より)



6トレンチ土層断面
(南側より)



1号土坑
(南側より)

6 宮裏遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 みやうら 宮裏遺跡 (市台帳No28-13)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字宮裏1881
更埴建設事務所
- 3 原因及び
事業者 公共事業=建設事務所改築
更埴建設事務所
- 4 調査内容 発掘調査 (調査面積 約700㎡)
- 5 調査期間 平成5年10月1日～11月9日
- 6 調査費用 3,200,000 円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
- 8 種別・時期 集落跡 平安時代
土坑群 中世
- 9 遺構・遺物 中世 土坑 54基 竪穴状遺構 5棟
出土遺物 土器片コンテナ 10箱



第14図 宮裏遺跡調査位置図

II 調査の所見

試掘調査の際、古墳時代の遺物が出土したため、集落跡の存在を想定して調査を開始したが、検出された遺構は中世の竪穴状遺構と土坑であった。

竪穴状遺構は5棟検出されている。基本的には方形であるが規模もさまざまで、掘り込みも明確ではない。どのような性格を持つのかは明らかでない。

土坑は約50基が検出されているが、人骨を伴うもの2基のほか、北宋銭や釘が出土するものが多数含まれており、土坑墓である可能性が高い。土坑は内部に礎を持つものと持たないもの、あるいは規模からいくつか分類が可能で、棺に入れて埋葬されたものと、遺体をそのまま埋葬したものがあろうである。

出土した人骨のうち1体は火葬骨で、火葬墓あるいは火葬施設の使用も考えられる。

出土遺物は少なく、時期を明確にするのは難しいが、わずかに出土した中世陶器と古銭から、15世紀前後と思われる。

平成6年度も車庫などの部分の調査が行われ、『荒井遺跡Ⅲ・宮裏遺跡』として報告書が刊行される。

7 田中沖遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 田中沖遺跡 (市台帳No.141)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字杭瀬下字田中495他
杭瀬下土地区画整理組合
- 3 原因及び
事業者 公共事業=区画整理事業
杭瀬下土地区画整理組合
- 4 調査内容 発掘調査 (調査面積 約400㎡)
- 5 調査期間 平成5年11月10日～12月20日
- 6 調査費用 3,178,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担 当 者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 8 種別・時期 集落跡 古墳時代～平安時代
水田跡 平安時代
- 9 遺構・遺物 住居跡 古墳時代～平安時代 19棟
水田跡 平安時代 1面
出土遺物 土器片 コンテナ40箱



第15図 田中沖遺跡調査位置図

II 調査の所見

発掘調査は、主要道路部分2か所について実施した。現地地表下50～110cmより砂層に覆われた平安時代のものと考えられる水田跡が検出されているが、調査範囲が限られているため、区画及び規模は確認できなかった。

この水田跡の下層より、古墳時代から平安時代の住居跡19棟が検出されている。古墳時代の住居跡には、多数の礎がまとまって出土しているものが見られるが、調査区が幅約5mと狭いため、全容を知り得た住居跡はほとんどなかった。調査は平成8年度まで予定されているため、詳細な整理作業は実施していないが、5世紀の終末から6世紀に集落の展開が始まり、何回かの断絶をはさんで、10世紀頃まで続いたようである。

これまで、当地域においては発掘調査が行われておらず、今回多数の住居跡が検出されたことは、更埴市における集落立地を考える上で貴重な資料となった。現在の地形から推測すれば、粟佐遺跡群の南沖遺跡・五輪堂遺跡などは自然堤防上に営まれた集落であり、田中沖遺跡は千曲川氾濫原に形成された中洲状の微高地に営まれた集落と考えられるが、周辺の調査が進んでおらず不明である。

調査終了時に「田中沖遺跡」として報告書刊行予定である。

8 城ノ内遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 城ノ内遺跡 (市台帳No31-7)
- 2 所在地及び 更埴市大字屋代字城ノ内1343-4
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び 公共事業=道路建設
事業者 更埴市(都市計画課)
- 4 調査内容 発掘調査(調査面積 約350㎡)
- 5 調査期間 平成6年1月26日～2月8日
- 6 調査費用 816,502円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
- 8 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 9 遺構・遺物 住居跡 古墳時代 9棟
堀 中世 1基 土坑 1基 中世 1基
出土遺物 土器片コンテナ 15箱



第16図 城ノ内遺跡調査位置図

II 調査の所見

道路の幅に伴う調査であるため、幅約3mと狭い範囲での調査であった。さらに、以前の建物により攪乱された部分が多く、遺構の一部を検出したにすぎない。上部が削平されているため検出面までの深さは、南側では70cm程あったが、北側では30cm程しかなかった。

調査が今後も実施されるため、詳細な検討は行っていないが、検出された住居跡はいずれも古墳時代で、5世紀から6世紀のものと思われる。

調査区の西側では調査区と平行して、堀と思われる溝が検出されている。検出できたのは遺構の一部であるため、規模などは不明であるが、わずかな出土遺物から、中世の遺構と理解できる。城ノ内遺跡では、これまでの調査でも中世の堀と思われる溝が4基検出されており、隣接する荒井遺跡や大塚遺跡では、中世の城(居館)と思われる方形区画の堀が検出されている。一帯には中世の大規模な施設が存在した可能性がある。

一連の調査が完了した時点で、報告書を刊行する予定である。

9 大境遺跡 整理調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おほきり 大境遺跡(市台帳No31-7)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字大境1317-1他
中部電力株式会社
- 3 原因及び
事業者 民間事業=変電所・鉄塔建設
中部電力株式会社
- 4 調査内容 整理調査
- 5 調査期間 平成5年5月20日～6年3月31日
- 6 調査費用 1,940,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄・佐藤信之
更埴市教育委員会
- 8 種別・時期 集落跡 弥生～平安時代
水田跡 平安時代
- 9 遺構・遺物 住居跡 弥生時代 3棟 古墳時代 17棟
奈良・平安時代41棟
掘立柱建物跡 奈良・平安時代4棟
井戸 中世 1基 竪穴状遺構 1棟
出土遺物 土器片コンテナ 80箱



第17図 大境遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査地は、更埴市でも特に遺構密度の高い地域であり、今回の調査でも弥生時代から平安時代の住居跡61棟が検出されている。これらの住居跡は何回かの断絶をはさんでいることは言うまでもないが住居跡の分布に違いが見られる。弥生時代の住居跡は調査区内全体に散在しているのに対して、古墳時代になると調査区北側に集中する。この傾向は奈良時代まで続き、平安時代になると集中は南側に移行する。こうした傾向は周辺の調査でも認めることができる。こうした現象は、自然堤防の成因によるものか、集落形成に対する社会的規制によるものか興味深い。現段階では判断しがたい。

調査区の北側では、中世の城(居館)の堀が検出されている。こうした施設は荒井遺跡でも検出されており、1辺約60mの方形区画になることが確認されている。今回検出された堀は幅7m以上と最大規模を持つものであり、中心的役割を果たした施設の存在が想定される。時代は出土した中世陶器より、14世紀後半から16世紀前半かと与えられる。

発掘調査は平成4年度に実施されており、平成5年度に『大境遺跡IV・V』として報告書が刊行される。

10 南沖遺跡 整理調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 南沖遺跡（市台帳No28-2）
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字粟佐字南沖1541-2 他
エムケー興産株式会社
- 3 原因及び
事業者 民間事業＝店舗増築
エムケー興産株式会社
- 4 調査内容 整理調査
- 5 調査期間 平成5年8月2日～6年3月31日
- 6 調査費用 380,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 8 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 9 遺構・遺物 平安時代 住居跡 3棟 溝 2基 鍛冶跡 4基
出土遺物 土器片 コンテナ3箱



第10図 南沖遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査は、浄化槽建設に先立ち平成4年度に実施され、平成5年度に整理作業を実施した。

調査区の3分の2はすでに破壊されていたため、4棟の住居跡が検出されているが、全容を知り得たものはない。いずれも平安時代の住居跡であった。また、鍛冶跡と思われる4基の掘り込みが検出されている。覆土には小さな鉄片や鉄滓を含んでおり、壁面は良く焼けていた。このほか溝2基、土坑2基などが検出されている。

平成5年度に整理作業を行い、報告書が刊行される。

11 屋代城跡 測量調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代城跡やしろじょう (市台帳No.183)
- 2 所在地及び 更埴市大字屋代字一重山
土地所有者 更埴市 他
- 3 原因及び 学術調査＝範囲確認
事業者 更埴市教育委員会
- 4 調査内容 測量調査 (調査面積 約14ha)
- 5 調査期間 平成5年12月13日～6年3月30日
- 6 調査費用 6,629,740円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 8 種別・時期 城館跡 中世



第19図 屋代城跡調査位置図

II 調査の所見

事業は国庫補助を受け、平成5・6年度に実施されたものであり、5年度はまず関係土地所有者の皆さんに協力をお願いし、主郭を中心に一重山の南側の測量を、等高線間隔50cmで100分の1の地形図を作成した。これと平行して地表踏査により屋代城全体の縄張り図の作成にも着手した。また、『諏訪家文書』に記載されている「桑原樹」を中心に城下町の調査も開始された。

平成6年度に地形測量と発掘調査、さらに古文書調査も併せて行い、調査報告書を作成した。

12 土口北山古墳群 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 土口北山古墳群 (市台帳No193)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字土口字北山
北村啓一郎 他
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地造成
北村啓一郎 他
- 4 調査期間 平成5年4月22日
- 5 調査費用 重機負担
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
- 7 種別・時期 古墳 古墳時代
- 8 遺構・遺物 なし



第20図 土口北山古墳群調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内の道路部分に2か所の試掘坑を設定し調査を行った。地表下70cm程までは暗褐色土が堆積しており、その下に厚さ約20cmの黒褐色土があり、時代は明確でないが遺物の小破片を含んでいる。さらには1地点では植物遺体を含んだ漆黒土、2地点では暗褐色の砂質土となり、湧水が始まる150cmまで掘り下げたが、土層に変化はなく、湧水が激しいためそれ以下の掘り下げは断念した。

造成計画がはっきりした段階で、掘削が必要となる部分についてさらに詳細な試掘調査が必要と伝えられたが、工事は実施されなかった。

13 更埴条里水田址 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 こまきじょう 更埴条里水田址 (市台帳No.29)
- 2 所在地及び土地所有者 更埴市大字屋代字横町125-1
株式会社北澤組
- 3 原因及び事業者 民間事業=社屋建設
株式会社北澤組
- 4 調査期間 平成5年6月24日
- 5 調査費用 重機負担
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 7 種別・時期 水田跡 平安時代
- 8 遺構・遺物 水田跡 近世? 遺物なし



第21図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

建設予定地内に1か所の試掘坑を設定し調査を行った。約70cmの盛土を掘り下げると旧水田面となり、さらにこの耕作土を掘り下げると、鉄分を含んだ灰褐色粘質土となる。厚さは30cm程で数面の水田が含まれていると思われるが、明確に分層することができない。地表下120cmからは茶褐色土・黄茶褐色土が35cm程堆積しており、その下は砂質土となる。さらに下層は黄褐色土となる。

工事での掘り下げは130cmまでであり、破壊される部分に水田の存在が確認された。しかし近世の遺構と考えられ、明確な分層もできないため、立会調査で保護に当たることとした。

14 横田島遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 横田島遺跡 (市台帳No.185)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字雨宮字古川831 他
長野都市計画株式会社
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地造成
長野都市計画株式会社
- 4 調査期間 平成5年7月28日
- 5 調査費用 重機負担
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 7 種別・時期 散布地 古墳～平安時代
- 8 遺構・遺物 遺構 なし
土器片 数片 時期不明



第22図 横田島遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内に2か所のトレンチを設定し、調査を行った。耕作土の下は約130cmまで茶褐色の砂質土が堆積しており、摩耗した遺物がごくわずかに混入している。その下は砂層となり、180cmまで掘り下げたか変化はなかった。茶褐色の砂質土に含まれる遺物は他からの混入と考えられる。

15 清水遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 清水遺跡 (市台帳No177)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字寂蒔1118
有限会社サンモード
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地造成
有限会社サンモード
- 4 調査期間 平成5年7月30日
- 5 調査費用 重機負担
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 7 種別・時期 散布地 平安時代
- 8 遺構・遺物 水田面 1面 時期不明



第23図 清水遺跡調査位置図

II 調査の所見

1か所の試掘坑を設定し調査を行った。地表下80cmまでは砂が堆積しており、その下に鉄分を含んだ水田面が観察される。遺物がないため時期は不明であるが、おそらく近世以降のものと思われる。さらには下には40cm程の砂があり、地表下150cmからは砂礫層となる。

埋蔵文化財の存在は確認されなかった。

16 大塚遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 大塚遺跡 (市台帳No31-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字大塚845-1
長野県土地開発公社
- 3 原因及び
事業者 公社事業=宅地造成
長野県土地開発公社
- 4 調査期間 平成5年12月6・20日
- 5 調査費用 重機負担
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 7 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 8 遺構・遺物 水田面 数面 平安時代～近世?



第24図 大塚遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内に2か所の試掘坑を設定し調査を行った。現在の水田の下には鉄分の沈殿層をほとんど灰褐色粘質土があり、その下にも鉄分の沈殿層がある。おそらく水田の跡であるが時期は不明である。地表から約45cm下からは厚さ20cmの灰褐色粘質土となり、この中にも水田跡が含まれている可能性が高い。この下は黄褐色粘質土が厚く堆積している。

工事による掘り下げは、地表から45cmまでであるため、上部の水田を破壊することとなるが、おそらく近世の水田と考えられるため、立会調査で保護に当たることとした。

17 荒井遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 荒井遺跡 (市台帳No.31-5)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字荒井1150 他
富士建設株式会社
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地造成
富士建設株式会社
- 4 調査期間 平成5年12月15日
- 5 調査費用 重機負担
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 7 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 8 遺構・遺物 遺構 なし
土器片 2片 平安時代



第25図 荒井遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内に2か所の試掘坑を設定し調査を行った。表土下85cm程までは盛土及び灰褐色の砂で間層として黒色の砂が入る。その下は茶褐色の粘質土が約50cm程堆積しており、遺物が含まれている。表土下140cmからは黄褐色粘質土が堆積している。

遺物包含層が確認されたため、この包含層を掘り込むようであれば、発掘調査が必要であったが、工事は実施されなかった。

18 中島遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 なまえ 中島遺跡 (市台帳No175)
- 2 所在地及び ところ 更埴市大字寂詩字八幡新田1082-3他
土地所有者 センコー株式会社
- 3 原因及び ゆえん 民間事業=倉庫建設
事業者 センコー株式会社
- 4 調査期間 平成6年1月12日
- 5 調査費用 重機負担
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 7 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 8 遺構・遺物 なし



第26図 中島遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内に2か所試掘坑を設定し調査を行った。調査地は水田面に40cm程の盛土が行われており、水田の下には茶褐色の砂質土が約25cm堆積しており、さらには下は黄褐色の砂質土が90cm程堆積していた。地表から約170cmからは砂層となり、埋蔵文化財は確認されなかった。

19 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴条里水田址 (市台帳No29)
- 2 所在地及び 更埴市大字屋代字清水304-1 他
土地所有者 両角利栄
- 3 原因及び 民間事業=アパート建設
事業者 両角利栄
- 4 調査期間 平成5年5月18日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
- 6 種別・時期 集落跡 古墳~平安時代
- 7 遺構・遺物 水田 1面 近世?
土器片 数片 時期不明



第27図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

耕作土の下には水田面である灰色粘土があるが、おそらく近世以降のものと思われる。水田面の下地表から40cm程には、厚さ約5cmの茶褐色の砂がある。隣接する長野県立歴史館の調査から、更埴条里を覆う平安時代の洪水砂に比定できる。この砂層からは黒褐色粘質土となり、風化した遺物の小破片が含まれていたが、工事による掘り下げは60cmまでであり、遺構の検出には至らなかった。

20 堂河原遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 堂河原遺跡 (市台帳No.140)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字杭瀬下字堂河原727-1
村山義治
- 3 原因及び
事業者 民間事業=店舗建設
村山義治
- 4 調査期間 平成5年6月8日
- 5 調査費用 重機負担
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
- 7 種別・時期 集落跡・墓 平安時代・近世
- 8 遺構・遺物 なし



第28図 堂河原遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内は70cm程の盛り土があり、その下は旧水田となる。江戸時代に寺(墓地)があったとされる地域であるが、水田の下は砂質土、その下は砂礫層となり、埋蔵文化財は確認されなかった。

21 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴条里水田址 (市台帳No.39)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字森字大浦521
町田光栄
- 3 原因及び
事業者 民間事業=仮設建物建設
日東建設株式会社
- 4 調査期間 平成5年7月13日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 6 種別・時期 水田跡 平安時代
- 7 遺構・遺物 土器片 約20片 古墳時代
木器・木片 10片



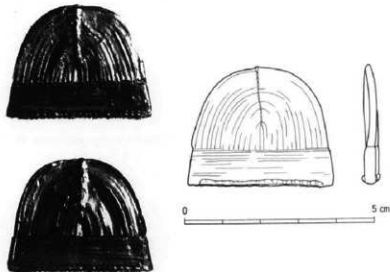
第29図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

当該工事は、上信越自動車道建設の仮設事務所建設に伴うものであり、浄化槽部分を除き地表下への掘り込みはないため、立会調査とした。耕作土の下には茶褐色土があり、その下は灰褐色の砂質土がある。更埴条里水田を覆う砂層に比定できるものであり、下に灰色粘土の水田土壌がある。地表から55cm下からは植物遺体を含んだ黒色土となり、この中に遺物を含んでいた。土器はほとんど甕の破片で、球形胴となる5世紀のものと思われる。そのほかに湾曲結菌式の堅橋が出土している。木質部はすでに失われており、

漆が塗布されたムネ部だけが残っていた。ムネ部分は長さ3.1cm、幅3.8cmで10~11本のヒゴを束ね、U字形に折り曲げて頂部から2.1cmの位置に糸を巻き固定している。

調査の結果、当該地には古墳時代の特殊な遺構の存在が想定でき、今後の開発には十分な注意が必要である。



第30図 更埴条里水田址出土堅橋

22 城ノ内遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 城ノ内遺跡 (市台帳No.31-7)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字新田1459 他
若林園男 他
- 3 原因及び
事業者 民間事業=店舗建設
株式会社宮本商会
- 4 調査期間 平成5年7月19日
- 5 調査費用 重機負担
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 7 種別・時期 集落跡 弥生~中世
- 8 遺構・遺物 水田跡 数面 近世
土器片 3片 時期不明



第31図 城ノ内遺跡調査位置図

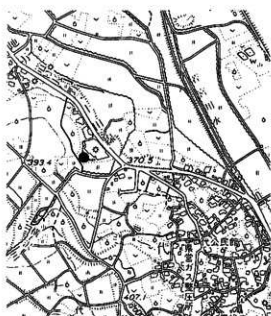
II 調査の所見

当該地は自然堤防の内側にあたり、城ノ内遺跡の範囲からはずれているが、遺跡の隣接地であるため、浄化槽建設時に調査を行った。170cmまで掘り下げたが、耕作土の下には茶褐色の砂質土がありその下に、厚さ約20cm暗灰色の砂質土があった。地表下45cmからは灰色粘土と鉄分を含んだ灰茶褐色粘質土が重なっており、数面の水田跡が含まれているものと思われる。地表下130cmからは茶褐色粘質土となる。

23 下吉野C遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 下吉野C遺跡 (市台帳No185)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字八幡字下吉野
信濃機工株式会社
- 3 原因及び
事業者 民間事業=工場建設
信濃機工株式会社
- 4 調査期間 平成5年9月1日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 6 種別・時期 集落跡 弥生~平安時代
- 7 遺構・遺物 遺構 なし
土器片 約10片 平安時代



第32図 下吉野C遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事予定地内の埋蔵文化財は、開田の際、大半が破壊されており、一部で耕作土の下に遺物包含層と思われる茶褐色粘土が10cm程残っていたが、他は耕作土を掘り下げると、地山層である角礫を含んだ黄褐色粘土となっていた。

24 土口遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 土口遺跡 (市台帳No.39)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字土口字東284他
更埴市土地開発公社
- 3 原因及び
事業者 公社事業=宅地造成
更埴市土地開発公社
- 4 調査期間 平成5年9月28日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 6 種別・時期 集落跡 縄文～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第33図 土口遺跡調査位置図

II 調査の所見

耕作土の下は砂質の暗黄褐色土が厚く堆積しており、埋蔵文化財は確認されなかった。

25 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴条里水田址 (市台帳No.39)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字内田155-1他
長野県土地開発公社
- 3 原因及び
事業者 公社事業＝宅地造成
長野県土地開発公社
- 4 調査期間 平成5年10月26日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 6 種別・時期 水田跡 平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第34図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

耕作土の下には厚さ25cm程の灰褐色砂質土が堆積しており、その下には鉄分の沈殿層がある。地表下約55cmには灰褐色粘質土の水田面が観察でき、その下には厚さ15cm程の黒褐色粘質土がある。周辺の状況からおそらく遺物包含層と思われるが、遺物の出土はなかった。この下には茶褐色砂質土が厚く堆積しており、140cmまで掘り下げたが、土層に変化はなかった。

工事による掘り下げは、45cmまでであるため、埋蔵文化財に直接影響することはない。

26 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴条里水田址 (市台帳No.39)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字五十里668-2他
有限会社キザキ商事
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地造成
有限会社キザキ商事
- 4 調査期間 平成5年11月9日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢高宏雄 更埴市教育委員会
- 6 種別・時期 水田跡 平安時代
- 7 遺構・遺物 水田面 平安時代～近世?



第35図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

耕作土の下には厚さ35cm程の灰褐色粘質土があり、水田面が数面ありそうである。その下には更埴条里水田を覆う砂層に比定できる、暗灰褐色の砂が5～10cm堆積している。地表から約60cm下には条里水田と思われる灰色粘土があり、鉄分の沈殿層をはさんで、その下にも灰色粘土層が認められた。

立会調査の際、下部への掘り下げを行ったが、当該工事は1m以上の盛土を行い実施されるもので工事による掘り下げはない。

27 水引遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 水引水引遺跡 (市台帳No169)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字榎堂水引222-1
市川澄雄
- 3 原因及び
事業者 民間事業=店舗建設
市川澄雄
- 4 調査期間 平成6年2月15日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
- 6 種別・時期 散布地 奈良～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第36図 水引遺跡調査位置図

II 調査の所見

浄化槽建設時の立会調査のため、320cmまで掘り下げた。50cm程の盛土の下には旧水田面があり、その下は暗褐色砂質土となる。地表から約90cmからは砂層となり、暗褐色の砂が荒い灰色の砂層をはさんで140cm程堆積している。その下は砂礫層となり埋蔵文化財は確認されなかった。

28 北野遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 北野遺跡 (市台帳No.31-18)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字雨宮字北野757-4
平林和夫
- 3 原因及び
事業者 民間事業=アパート建設
平林和夫
- 4 調査期間 平成6年3月9日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
- 6 種別・時期 集落跡 弥生～平安時代
- 7 遺構・遺物 水田 数面 近世



第37図 北野遺跡調査位置図

II 調査の所見

耕作土の約40cmには水田と思われる灰色粘土があり、茶褐色粘質土をはさんで厚さ25cm程の暗灰色粘質土となる。この中にも数枚の水田が含まれているが明確に分層できない。隣接する土ロパイパスの調査では、ここから近世陶器が出土している。地表下90cmからは砂質土となり、120cmからは砂となる。

当該工事は約50cmの盛土により実施されるもので、埋蔵文化財に直接影響することはない。

報告書抄録

ふりがな	へいせい5ねんど こうしよくしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	平成5年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集者名	佐藤信之							
編集機関	更埴市教育委員会 社会教育課 文化係							
所在地	〒387 長野県更埴市杭瀬下84					TEL (0262)73-1111		
発行年月日	1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
天木下	長野県更埴市 大字寂蒔	20216	180	36 30 46	138 8 6	19930511 ~19930513	200	工場建設
古屋敷B	長野県更埴市 大字八幡	20216	47	36 29 29	138 5 29	19930908 ~19930916	20	林道拡幅工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
天木下	散布地	平安時代	柱穴群	1群	須恵器			
古屋敷B	散布地	縄文時代	土坑	1基	押型土器		縄文土器散布地	

平成5年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書

発行日 平成7年3月31日

発 行 更埴市教育委員会

〒387 長野県更埴市杭瀬下84番地

電話 (0262) 73-1111

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381 長野県長野市西和田470

電話 (0262) 43-2105
